

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 ひめさゆり)

事業所番号	0672300431		
法人名	山形小木医科器械株式会社		
事業所名	グループホームあさひ		
所在地	西村山郡朝日町大字宮宿320-6		
自己評価作成日	平成 22 年11月 9 日	開設年月日	平成18 年3 月 15 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の方々に担当者をつけて、毎月モニタリングを実施しています。受診、薬の管理等も担当制にして責任をもって行っています。それにより、スタッフ各自が更に責任をもって業務を行うようになり、利用者の方の思い、希望を引き出せるようになりました。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)
(公表の調査月の関係で、基本情報が公表されていないこともあります。御了承ください。)

基本情報リンク先 <http://www.kaigo-yamagata.info/yamagata/Top.do>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ゆったり楽しく、その人らしさを大切に、地域で暮らし続けられる施設を目指し、職員は日々サービスの向上に向けて問題意識を持ち前向きに取り組んでいる事業所である。その努力により利用者や家族が事業所に何でも言える関係が生まれ始め、地域の方の理解も得られるようになってきている。全職員はケアの実際を振り返りながら将来の希望も含めた各々の自己評価によって目的意識を持ち日々ケアの向上に努力している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	平成22年 12月 7日	評価結果決定日	平成22年 12月 27日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職場内研修にて共有し、実践につなげています。毎月理念に基づいた目標を立てて実践つなげています。	理念は法人の理念を基に事業所で職員と共に地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を作成し、掲示すると共に、職場内研修等折に触れ職員一人ひとりが理念の実践が出来ているかの確認を踏まえた話し合いを行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くの商店街を利用しています。町内会の祭りに参加しています。	理念に掲げた地域に愛される施設の実現に向け、町内会に加入し挨拶の励行などを目標に掲げ努力している。地域の行事に参加したり、事業所の行事に参加を呼びかけたり、広報誌を利用し様々なボランティアの呼びかけを行う等、地域との交流を積極的に取り組んでいる。また、町内会の話し合いに出席し交流を深め意見等を頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の広報誌や運営推進会議にて、日常生活の様子や支援方法を伝え、理解を得られるよう努めている。認知症サポーター養成講座の講師をする機会を頂いております。認知症に関する情報や普及促進を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度開催し、出席者からは積極的に意見を頂き、それをユニット会議等で職員全員で話し合い、サービスの向上につなげている。	昨年の目標達成計画を踏まえ、委員を複数お願いする等努力している。町職員をはじめ包括職員、地域の区長、民生委員等により様々な意見が出されていると共に、事業所からは状況報告に留まらず、事業所の今後の取り組みについての話し合いもあり、双方向的な会議となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所の取り組みや実情などは伝えている。また、骨折等の事故報告書はすぐに提出し、行政からの指導を頂いている。困難事例は一緒に関わってもらっている。	運営推進会議や直接窓口に行く機会を利用し、事業所の取り組みや実情等伝えている。困難事例に関して行政の関わりをお願いした事例もある。また、認知症サポーター養成講座の講師の依頼を受ける等、協力関係の構築に向け努力している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	鍵を掛けず、いつでも利用者やスタッフが自由に行けるようにしています。職場内研修で勉強して理解しています。所在確認し、1対1で対応しています。	研修や勉強会を通じ、職員は禁止の対象となる具体的な行為を正しく理解している。職員は行動を抑制せず利用者の状態把握や意向の把握に努め見守りや寄り添う事を重視することで、危険を防止すると共に、身体拘束をしないで過ごせる工夫をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職場内研修で取り上げて勉強しています。言葉遣いや不適切な介助についても学び声かけと一緒に考えています。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職場内研修にて勉強しています。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は事業所の説明を充分に行い、理解を頂いている。不安や疑問な点は説明をし、納得して頂いている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族懇談会を年2回設けています。意見はすぐ反映できるように情報を共有し実践しています。意見箱を設けています。	昨年の目標達成計画通り意見箱を設置し、意見を引き出す機会の確保を行っている。また、意見の呼びかけの掲示や家族会の中で意見を伺う場を設けるなど、積極的に意見等の表せる機会の確保に取り組んでいる。今後満足後調査を行う取り組みも検討されている。		
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット会議などにかけて反映しています。職員の意見や提案を聞き可能なものは反映しています。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度開始に目標を設定し、年2回施設長の面接時達成度や努力、実績を話し合う。希望休を聞きシフトに取り入れているが、個人の努力や実績が反映されているのか疑問に思うことがあります。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加させてもらっています。月1度職場内研修をしています。職員が学びたいものを聞きそれに添って研修しています。	代表者は、全職員による年2回の自分自身のケアの振り返りや、将来の希望などを含めた自己評価によって、力量や希望を把握し外部研修等の機会の確保を行っている。毎月行われる研修も事業所の課題としている内容等計画的に行われている。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	他のグループホームの夏祭りに参加させてもらっています。年1度交換実習を行っています。その時に情報交換しています。県グループホーム協会主催の研修などを中心にネットワーク作りを職員に呼び掛けています。	グループホーム協会主催の研修等を通じた職員同士の交流やネットワーク作り、交換研修への参加を含め職員の交流を大切にしている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の希望を聞きながら、グループホームでも安心してその人らしい生活を送れるように努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人や家族の思いや要望を確認しケアプランに反映し、サービスを提供している。職員が周知し、面会があった時に家族に不安や要望がないか伺い話やすく、面会に来やすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状況や家族の思いを受け止めその時々に必要な事を見極めながら対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームに入る前の生活を知る事により、やりたい事や出来る事を見極め日常生活で普段から助け合えるような関係を目指しています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との関係が切れないように、家族に働きかけたり、自宅に行かせてもらったりしています。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	グループホームに入る前からの人や場所との関係が途切れないように、行きたい場所や会いたい人がいる時は出来る限り支援に努めています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	不穏になる方に関わる事が多く自立している方に目を向ける事が少ない為一人ひとりに目を向けるように努めています。利用者同士が助け合う関係を大事にしています。トラブル時は職員が間に入るようにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて家族に会ったり状況を聞いたりして相談やアドバイスをしています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりに担当者をつけ、月に1度モニタリングを実施しています。日々の話を傾聴し本人の意向を取り入れています。	理念に掲げるその人らしさを大切に、センター方式アセスメントを活用し、利用者の気持ちに寄り添い、日常のケアの場面で思いや意向の把握に努めている。把握が困難な方には、家族からの情報や日々の記録、仕草や表情を読み取り利用者本意に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居室には馴染みの物を置き生活環境を変えないようにしています。家族より生活歴を聞き把握しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの力量を見極め把握するように努めています。パターンシートにて生活リズムを把握し、理解するように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の希望を伺い、職員みんなで意見やアイデアを出し、話し合いを設け、ケアプランを作成しています。月1度モニタリングを実施しています。	担当者による毎月のモニタリングを行い、3ヶ月ごとの見直しの機会を確保している。ユニット会議の中で家族から伺った希望や職員からの意見、アイデア等を出し合いその結果をケアプランに反映させている。サービス担当者会議やカンファレンスは職員のみで行われており、家族の関わりが不足しているように見受けられる。	サービス担当者会議には家族の参加を呼びかけ、家族と関係者による積極的な意見交換を行いながらチームで作る介護計画作成の仕組みづくりを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員で話し合いアイデアを出し、ケア記録に残しています。パターンシートを活用しケアの統一をしています。ケアプランに添ったケアが実践できているか、確認までは至っていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化(小規模多機能型居宅介護事業所のみ記載) 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議にて意見交換の場を設けている。避難訓練の時は、地区消防団の協力を得て実施している。なじみの床屋等を利用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>家族や本人が希望の先生に通院し、こまめに連絡や相談をしています。家族対応の方は受診時連絡表を活用しています。</p>	<p>事業所による受診支援の際には電話により家族への報告が行われ、また、家族による通院の際は日常生活や利用者の状況を記載した受診時連絡表に主治医のアドバイスなどいただけるような仕組みにより、情報を共有し、適切な医療を受けられるよう関係を構築している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師に具合の悪い人や気になる事を相談し、情報の共有に努めています。急変時は電話で相談しています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時や見舞いの時病院関係者と情報交換し、早期に退院出来るように取り組んでいます。</p>		
33	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居の契約の際、指針を説明している。本人や家族の意向を聞き相談しながら医師、家族職員が連携を取れるように努めています。また職員が終末期について、まだまだ勉強不足です。</p>	<p>昨年の目標達成計画通り、家族に対し早い段階から看とり指針の説明を行っている。これまで看とりの事例がないことから、職員は重度化の段階に応じた具体的な対応に不安を抱えており、看とりについての研修を実施した。</p>	<p>今後、対応が求められる個別具体的なケースを想定し、事業所として出来ること出来ない事を明確にし、様々なケースに対応できるよう今後とも方針の共有に向け取組を期待したい。</p>
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>心肺蘇生やAEDの講習を実施しているが、応急手当や初期対応については今後研修をしていく予定です。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	一人ひとり避難できる方法を居室の入り口に張って置き見直しを定期的に行っています。年2回避難訓練を行っています。	年2回消防署や消防団を交えて日中、夜間を想定した避難訓練を行っている。地震を想定した訓練も行われている。地域への呼びかけについては、運営推進会議で提案を受け、今後働きかけを行っていく予定である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人格の尊重や尊厳の保持について、ユニット会議にて話し合いや職場内研修で勉強会を行っています。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけに努めています。	理念のその人らしさを大切に受けて尊厳ある暮らしを大切に、誇りやプライバシーに配慮した対応への工夫を行っている。折に触れ研修会では職員一人ひとりの振り返りを含めて話し合いをし、普段から人格の尊重とプライバシーの確保に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	担当の方を中心として本人の思いや希望を話し、自己決定できるよう働きかけています。コミュニケーションをとりながら希望を言える雰囲気作りに努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に、本人の希望に添った生活を支援できるように努めているが、まだ業務優先のところが見られます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの床屋に行ったり、出張床屋をしてもらっています。季節に応じた服装が出来るように支援し、普段から身だしなみを整えるように気にしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る事を見極め買出しや調理、片付けなど参加出来るような場面を多く支援しています。毎日夕食の献立に利用者の食べたい物を提供しています。	季節の食材や、利用者や職員による畑で収穫したものを活かしながら、夕食は職員と利用者によってメニューが決められている。調理は利用者、職員が協働して行い、匂いや調理の音などその過程を大切にすることで食事が楽しみとなるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食べる量や水分をパターンシートに記入し常に状態を把握しています。個人に合わせて、刻みにしたりお粥にしたりしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけを行い、自力で困難な方には介助を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄のパターンを把握し、極力失禁状態を減らせるようトイレでの排泄を促したり、必要最小限のおむつの使用を心掛けている。	パターンシートを活用し、見守りを重視し、羞恥心に配慮したさり気ない誘導によりトイレでの排泄に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘のある方は先生に相談し下剤を服用しています。又、日頃より活動量を増やしたり、乳製品やバナナ、サツマイモ等を献立に入れるように工夫しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	好みの時間帯を把握し、本人の希望に合わせて入って頂いている。	利用者の希望に応じて入浴できるよう取り組んでいる。利用者の状況に応じて機械浴の設備もあり、入りたがらない方にも声掛け等工夫して入浴を楽しむ事ができる支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でも眠気がある際は居室にて休んでもらっているが、活動を促し生活リズムを整えられるように支援しています。昼食後は昼寝を促し休息してもらっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	私の療養シートを作成し、ファイルに薬の説明書を閉じ内容を把握できるようにしています。薬の目的、副作用については全職員が理解しているとはいいたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが役割を持っているわけではないが、生活歴や日々の記録を活用し出来る事を一緒に探す取り組みをしています。個別に気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	全員ではないが本人の希望を聞き自宅や買い物に行ったりしています。天気の良い日には、散歩や畑の野菜の成長を見たり季節ごとの外出に行っています。通院時には家族と外食をしたりしている人もいます。	行事ドライブ等のイベント的な外出を含め、ストレスの発散や五感刺激の機会として、本人の希望を確認しながら、散歩や畑、馴染みの場所等の外出は日常的に支援している。また帰宅願望のある利用者にも個別的に寄り添いながら散歩等対応している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力にに応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を持っている方は好きな物を自分で購入する事を大事に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族から電話がきた際は取り次いでいます。又自ら電話したい方は自分で電話を回してもらいます。手紙のやり取りができる方は少なくなっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁には季節ごとにあった飾り付けを工夫しています。施設内を常に清潔に保つように心掛けています。リビングはこまめに換気しています。こたつや扇風機など季節の物を用意して使用しています。	共用部分には、畳敷きの部分にコタツを配置したり、ソファでくつろげる部分もありそれぞれが思い思いに過ごせる工夫がある。飾り付けには派手すぎず季節感のあるものを飾り、居心地良く過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファや畳があり、利用者によってはそれを利用しくつろいでいます。普段は席順を決めずに気の合う利用者同士で隣に座り談笑しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物を出来るだけ持ち込むようお願いし、なれた物や好みの物を置いているが新しい物が多いようです。住み慣れた自宅と同じ様に居心地の良い居室作りを家族の方と協力して作って行きたいです。	利用前とのギャップが無いように家族と馴染みの物を持ち込むよう話をしている。居室としては和室と洋室の設備があり、希望や状況に応じて対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレに張り紙や居室に表札に名前を記入しはりわかりやすくしています。利用者の状況に合わせてリビング内の家具の配置に配慮しています。		